

「高専連携特別授業」でクルマの魅力伝授

学生／講師／に高校の後輩指導

日本工学院八王子専門学校（千葉茂校長）は6月21日、教育連携する昭和第一学園高等学校（北村信一校長・立川市栄町）との「高専連携特別授業」を八王子市片倉町の同校で開いた。

両校は2016年3月に教育連携協定を締結。高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、専門学校が求める学生像及び教育内容の理解を深め、双方の教育活性化を目的としている。

今年度は昭和第一学園工学科3年生を対象に、高校のカリキュラム「応用工学（選択科目）」の高専連携授業を3回にわたって実施。これまでに「非接触型体温計を作ろう!」の「外装・ケース編」「電子回路編」を行った。

3回目となる今回は「自動車からモビリティへの進化を学ぼう!」。1時限は、一級自動車整備科並びに自動車整備科の清水拓也科長が自動車の歴史をスライドで紹介。自動車産業で100年に一度ともいわれる大変革期のキーワード「CASE」をはじめ、ハイブリッドカーや電気自動車の需要、テクノロジー技術の進

展による自動運転のほか、注目を集めるシェアリングなどの市場も説明した。

2時限「エンジンの構造」、3時限「次世代自動車」はグループ分けし、交代制で実施。「エンジンの構造」では、2ストロークエンジンでの分解・組み立てを通して構造を学んだ。

昭和第一学園の卒業生で一級自動車整備科4年の押井湧樹さんら3人の在校生が講師を務め、部品の働きなどについて説明した上で「部品1つでも組み方を間違えるとエンジンがかからない。気を配って慎重に作業すること」などとアドバイスした。押井さんは「今回の授業を通してクルマにも興味を持ってもらえたら嬉しい」と話した。

また、「次世代自動車」の授業ではコネクテッドカーに試乗し、衝突被害軽減ブレーキの体感や車に搭載されているIoTの仕組みを学んだ。

参加した橋元雄大さんは「細かい部品の組み合わせでエンジンが作られている

ことが理解できた。実習の組み立て作業は大変だったが、丁寧に教えてもらい普段はできない貴重な体験だ」と話した。また根本成さんは「初めての体験が自分の成長や強みにつながることを実感した。見るものが新鮮で、実際に触れたところが良い経験になった」と振り返った。

引率した百瀬公博副教頭は「専門性の高い実機を使った授業は生徒にとって刺激が大きい。推奨されている若きづくりびとのテーマは、本校でもモノづくり、技術を学ぶことを重視しており、連携を継続していきたい」と総評した。



自動車の歴史などスライドで紹介する清水拓也科長（写真右）と母校の先輩の押井湧樹さん（中央）から2ストロークエンジンの分解・組み立てなどの指導を受ける高校生

